

# 未来の滋賀をつくるひと

公益社団法人

滋賀県建設産業団体連合会

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜 1-1-18

TEL ● 077-522-3232

MAIL ● info@yumeken.or.jp

# 未来の滋賀を つくるひと



# はじめに 建設産業の活性化に向けて

建設産業は私たちの暮らしの基盤を支える「縁の下の力持ち」です。また、災害が起こった時の安心・安全を担うなど、大きな社会的役割を果たしています。これまでは厳しい労働環境を耳にすることも多かった建設産業ですが、若者や女性が活躍するなど、雇用の創出を通じ地域の担い手づくりにも貢献しています。この冊子では、県民のみなさんに、建設産業への理解を深めると共に、より興味を持って頂くために、魅力ある滋賀県の建設産業の役割や取り組みをお伝えしていきます。

## 建設産業の社会的役割

滋賀県民の豊かな生活を支える	滋賀県民の安心・安全に繋がる	地域を支える主要な産業としての
社会資本の整備	災害に強い県土づくり	地域づくりの担い手

より良い社会の実現のために目指すべき建設産業の将来像

## 地域を支える人と技 魅力あふれる建設産業

- vision 1** 豊かな暮らしを支えるインフラの担い手であり、**県土の守り手**。  
地域の雇用や経済を支え、必要とされる主要な産業を旨とします！
- vision 2** 暮らしを支える技術と経営に優れた企業の能力を活かし、  
工事の品質向上と、**次の世代への技術継承**を促進します！
- vision 3** ものづくりの楽しさとやりがい、達成感と感動を生み出し、  
「**未来に夢が持てる**」長く安心して働ける建設産業を旨とします！

### そのための4つの取組



#### 安心・安全な 県土の整備

地域の担い手が活躍し、安心・安全で発展性のある地域づくりを推進します。



#### 働く環境整備

優れた能力が発揮できる、仕事環境の整備を行います。



#### 担い手の育成

将来にわたって地域を支える人材と、技術の継承を行います。



#### 魅力の発信

未来を拓く若者、子どもたちへの情報発信を進めていきます。

# 未来の滋賀をつくるひと

1

## いま滋賀の建設産業が面白い



→P3-4

特集 けんせつ小町

→P5-6

現場見学会 - 建設業で役立つ資格

2

## いま滋賀の建設産業を学びたい



→P7-8

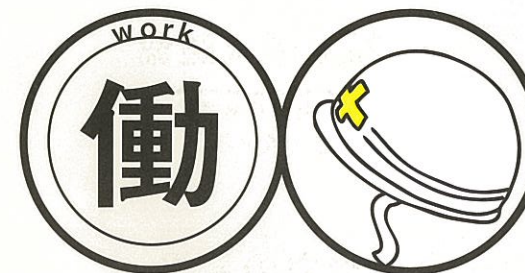
災害時の役割 - かまどベンチの取組

→P9-10

社会資本整備の役割

3

## いま滋賀の建設産業で働きたい



→P11-12

建設業界のキャリア紹介 - 建設人の一日

→P13-14

働く環境整備の取り組み

有限会社 金岡組

小山奈穂子さん

建設業は暮らしの基盤を作ること

そのプロセスに関われるのが面白い



自分らしい役割を  
発見できる

「仕事といえば力仕事のイメージだった。小さい頃から女性の中心では体力に自信がある方で、男兄弟の中で培われた負けん気が持ち前だったと小山さん。ダンブやコンボといった重機の操縦に興味があったこともあり、社長に誘われたのをきっかけに金岡組に入社したのは13年前のことです。当時は「男性に負けないように仕事をしなくてはいけない」と、仕事にまい進する日が続いたといえます。しかし、多くの現場をこなしていく中で「男性に張り合おうという気持ちはなくなりました」と、建設現場においても男性と女性、そして人それぞれ役割があるのだと実感する様になったと言います。現場での細かい手作業や重機の操作、記録用の写真撮影や事務作業など女性の丁寧さが活躍できる部分は多いのです。小山さん自身「意外にパソコンの事務作業も嫌じゃなかった」と、建設業界の仕事の中で新たな自分の発見にも繋がっています。

普段見える景色が  
変わる

「同じ現場はなくても、すべての仕事が地域の暮らしを支える基盤になっていて、そういった会社の仕組みが分かってくることが楽しい」。社会基盤を整備する「ものづくり」の担い手になっていくことにやりがいと面白みを見出している小山さん。普段目にする道路や、橋といった何気ない暮らしの風景を見るのが楽しく、自然と目が行くようになったと言います。「建設業はきつい仕事だと言われることもありますが、それだけ真剣に向き合える楽しい仕事」。ものづくりのプロセスと出来上がった時の達成感が仕事への原動力になっています。

自分自身の更なる  
可能性を求めて

「一級土木施工管理技士の資格をとって、大きい仕事を担当したい」と今後の目標を語る小山さん。忙しい毎日の仕事の中でも、進むべき道への目標設定をしながら、一歩ずつ着実にあゆみを進めています。



こんな人にオススメ!

職人肌の持ち主

物作りの好きな人

プロフィール

会社：有限会社 金岡組  
彦根市古沢町978-8  
0749-22-0938  
勤続：13年

お仕事風景スナップ



みんなで助けあってひとつの物が出来る

こんな素晴らしいことってない

けんせつ小町

02

株式会社 エフォート

西山佐代子さん



営業事務から始まった  
建設人の道

「事務員の採用ははずだったのに」。そんな西山さんも今では滋賀県の建設現場ではすっかり有名になった「女性の現場監督」です。営業事務だった西山さんが現場に行くことになったきっかけは、建設工事の積算業務。業務で使われる専門用語もわからないまま計算をしていることに疑問を感じ、当時の社長にその話を持ちかけました。「わからないなら現場に行けばいいだろう」と連れて行かれた先で待つていたのが現場の監督補佐でした。

苦労に見合う、  
やりがいがある

会社がとても忙しい時期であったこともあり、そのまま現場の担当に。「もちろん右も左も分からない状態でしたが、現場に「いる」というのも立派な監督の役目です」と西山さん。そこで建設現場での業務のすべてを教わり学ぶことが出来ました。その後、経理や積算などの事務職もしながら、繁忙期には現場の監督業務もするという西山さんならではのスタイルに。「入社し

プロジェクトチームの  
一員としての役割がある

「みんなが協力してひとつの物が出来上がる仕事に、男だからとか女だからということは関係ない。事務職だって立派な建設業」。女性の監督として第線で活躍する西山さんが、多くの葛藤を抱え、乗り越えてきた末の答えです。将来像については「縁の下の力持ち」でありたいと、滋賀の暮らしを守り、未来をつくる建設人としての自身を見据えています。



こんな人にオススメ!

忍耐力に  
自信あり

好奇心が  
強い人

プロフィール

会社：株式会社 エフォート  
彦根市彦根市原町194  
0749-22-9366  
勤続：15年

お仕事風景スナップ



# Get a license! 建設業で役立つ資格って?

「建設業」と一言で言っても、その分野は多岐にわたり、その工事の領域によって様々な資格が役立ちます。そんな中であって、公共工事の現場には設置が必要とされている監理技術者または、主任技術者になるために必ず持っているといけな資格があります。それが「施工管理技士」。ここでは、現場監督をを目指す人なら必須と言っても過言ではないこの資格についてご紹介します。

## ■ 監理技術者とは

建設工事現場のすべてを取り仕切る最高責任者として、工程・安全・品質等の管理を行います。

### 【資格要件】

- ・1級施工管理技士資格者
- ・大臣特別認定者
- ・一定の実務経験者

## ■ 主任技術者とは

元請け・下請けを問わず、請け負った建設工事の現場に必ず設置され、施工上の管理を行います。

### 【資格要件】

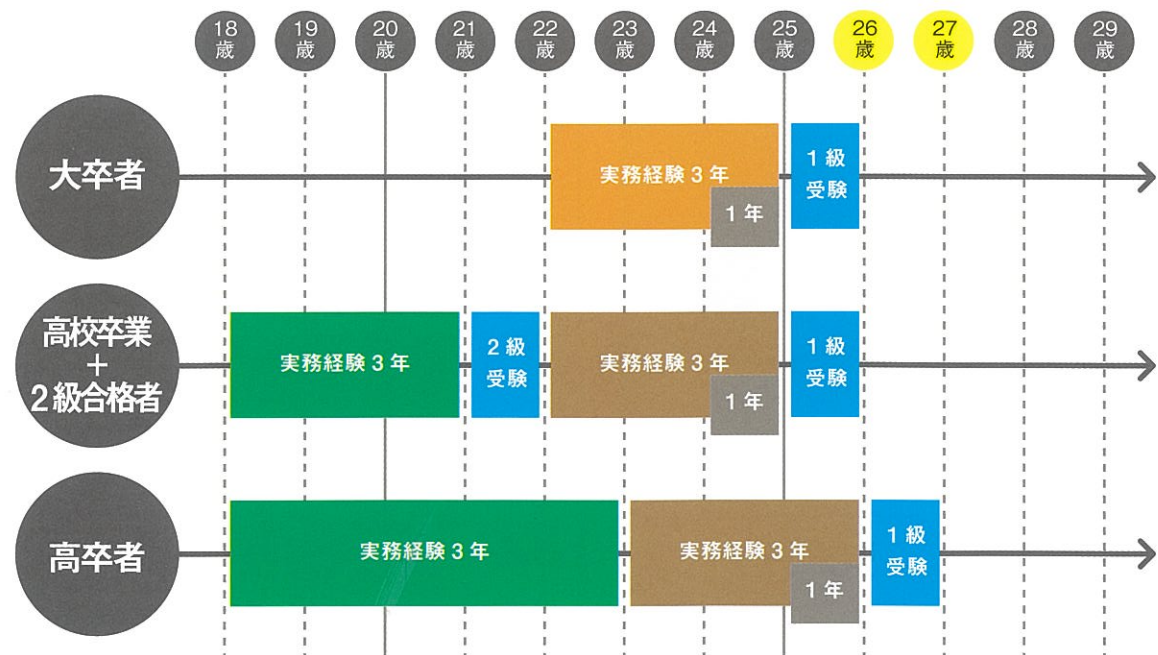
- ・2級施工管理技士資格者以上
- ・一定の実務経験者

目指そう!

## 1級施工管理技士の資格要件

受験資格要件が緩和され、高校（指定学科）卒業者も大学（指定学科）と同年齢で受験することが可能に。

- 2級受験または主任技術者になるために必要な実務経験
- 大卒者が1級受験に必要な実務経験
- 2級合格者が1級受験に必要な実務経験
- 指導監督の実務経験



# 建設工事現場見学会

滋賀県では年間を通じて、少しでも多くの県民の皆さんに建設業のことを知っていただくことを目的として、建設工事の現場見学会を実施しています。馴染みのない建設工事現場に直に触れていただくことによって、建設産業の魅力と工事現場の現状や取組をお伝え出来るよう努めています。滋賀県は、このような取り組みを通じて、建設業界のイメージアップと入職促進を目的としています。

## Site Tour Calender

2014 - 2015

1st

2014年10月9日  
湖南市立三雲東小学校  
4年生40名  
草津守山線道路  
整備工事見学会



1st 小学生を対象とした見学会の参加者の声・学び

- ・みんなのためにやっていることがすごい。
- ・ショベルカーだとスコップ75杯分をすくうというところが心に残りました。
- ・未来につながるということ。
- ・作った場所に自分の名前が残ること。

2nd



2014年10月20日  
彦根工業高校  
建築科2年生36名  
武佐団地新築工事見学会

2nd 高校生を対象とした見学会の参加者の声・学び

- ・現場を実際に見たり、お話を聞いたりして将来の考えにとでも参考になった。
- ・学校では経験できないことが学べた。
- ・現場の最優先が安全であること。
- ・たくさんの方々が集って一つの建物が出来る上がること。



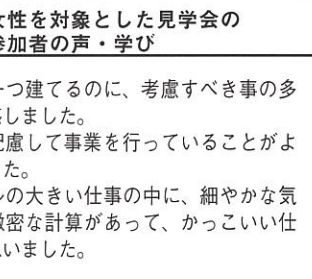
3rd

2014年11月20日  
女性を対象とした  
危機管理センター  
新築工事現場の見学会



3rd 女性を対象とした見学会の参加者の声・学び

- ・建物一つ建てるのに、考慮すべき事の多さを痛感しました。
- ・環境に配慮して事業を行っていることがよく分かった。
- ・スケールの大きい仕事の中に、細やかな気配りや緻密な計算があって、カッコいい仕事だと思いました。



4th



2014年12月24日  
一般の方を対象とした  
天ヶ瀬ダムの見学会

4th 一般の方を対象とした見学会の参加者の声・学び

- ・国土の整備による安全安心、エネルギーの確保、無くてはならない公共工事。
- ・工事を完成させるのに、周辺環境や現場の安全性に至るまで多くの配慮点があることが分かった。
- ・ダムの再開発の必要性を知ることができた。



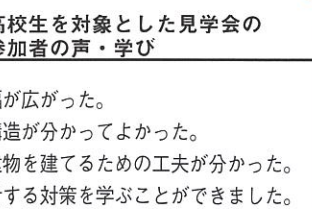
5th

2015年1月23日  
八幡工業高校2年生33名  
多賀・県庁現場見学会



5th 高校生を対象とした見学会の参加者の声・学び

- ・進路の幅が広がった。
- ・建物の構造が分かってよかった。
- ・安全な建物を建てるための工夫が分かった。
- ・災害に対する対策を学ぶことができました。



☑ 2015-2016年も同様の見学会を実施する予定です。興味のある方はぜひご参加ください。

お問合せ：(公財)滋賀県建設産業団体連合会 → ☎ 077-522-3232

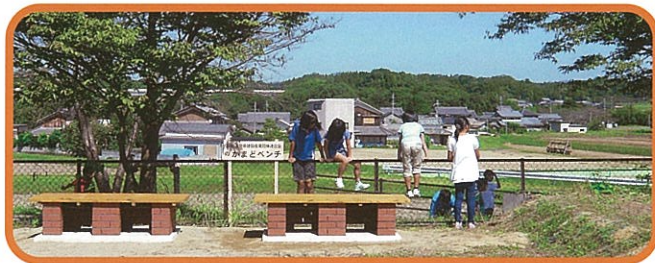


建設業について  
知っておきたい！

# 災害時の役割

## 防災コラム

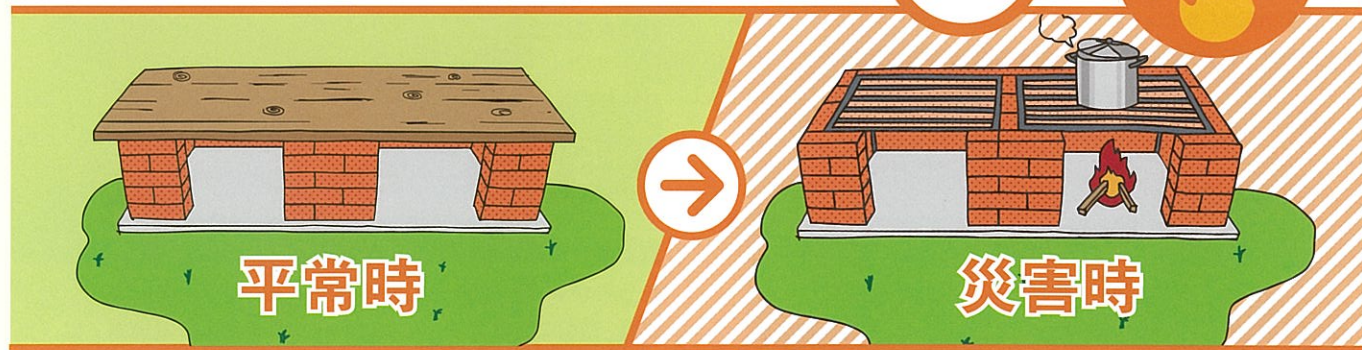
### かまどベンチ



かまどベンチは、レンガと板材で作る災害支援設備です。普段はベンチとして使用できますが、災害時には「かまど」として炊き出しができます。製作は住民参加型で、地元の子どもたちも携わるなど、県民の皆さんとの協働により、公園や緑地に設置が進んでいます。ただ単純に災害時に役立つ設備を作るということだけでなく、その製作の過程を通して地域住民同士の絆を強め、防災意識への関心を高めるなど、さまざまな効果が期待されます。かまどベンチづくりを通して、災害に強い地域づくりを促進していきます。

### 利用イメージと制作プロセス

普段は  
憩いの場 → 災害時は  
炊き出しに



- 1 かまどベンチの土台となる基礎を作ります
- 2 基礎をガイドに耐熱レンガとモルタルを重ねていきます
- 3 用意しておいた鉄網を上の方に設置します
- 4 最後に大きさにあった座板を作って乗せれば完成です

建設業は、暮らしを支える社会資本を整備するということに加え、県民の皆さんの安心と安全を担っています。台風による豪雨で発生する土砂災害や、それに伴う道路の通行障害の復旧にあたるなど、いつも目に見えないところで大きな社会貢献を果たします。このコーナーでは平成25年9月の台風18号における災害復旧と、主に北部地域で行われている冬季の雪害対策について建設業の役割を紹介します。

### 降雪と交通確保

路面凍結や雪害による交通障害から暮らしを守るための役目

日本最大の湖「琵琶湖」を擁する滋賀県は、日本海気候区、東海気候区及び瀬戸内海気候区が重なり合う地域です。南部では、一冬に数回雪が積もる程度ですが、山沿い、あるいは湖北・湖西では降雪は珍しくありません。雪が積もらない場合でも路面の凍結によって冬の交通は大きな危険をはらみます。そうした危険性を昼夜問わず監視し、凍結防止と除雪・排雪の役割を担うのも建設産業です。



### 台風と災害復旧

平成25年の台風18号に見る災害復旧能力とその対応

平成25年9月、滋賀県を襲った台風18号では、土砂災害による人的被害が発生し、暮らしを支える道路災害は百件以上という大きな爪痕を残しました。この災害復旧に関して大きな役割を担ったのが建設業でした。連休にもかかわらず多くの建設業者が災害現場にいち早く駆けつけ、応急復旧活動に従事しました。県土を守る滋賀の建設業者の責任ある行動が、早期の災害復旧に繋がりました。





## 湖国、近江の川づくり

「湖国」と呼ばれる滋賀県では、人々は湖や河川の恵みを楽しみ、時には脅威にさらされながらも畏敬の念を持ち、自然の環境やリズムにうまく寄り添いながら湖や川と共存し、独自の文化が培われてきました。このような中で、治水安全度の向上を目指して県民の生命財産を守るとともに、豊かな自然、風土に培われた歴史・文化を深めて、人々と川の絆をさらに強め、多様な生物が息息する豊かな河川環境を構築し、生活の豊かさと自然環境の豊かさを両立させる河川づくりを進めています。

### 河川整備事業の必要性

地域の安全な暮らしを守り、活発な社会経済活動を支える治水事業の役割はますます重要なものとなっています。特に、川底が周辺の地面よりも高い「天井川」と言われる状態の川の数が81本と全国で1位であるなど、県下多くの河川の治水安全度は依然として低い状態にあり、今後も緊急かつ着実な治水事業を推進していきます！

#### theme 1 河川の氾濫から暮らしを守る

氾濫により周辺地域に大きな被害をもたらす緊急性の高い河川を優先し、河道拡幅、築堤、天井川の平地化、放水路開削等を行い、県民のみならずの暮らしを守っています。



#### theme 2 自然豊かな河川環境の保全と整備

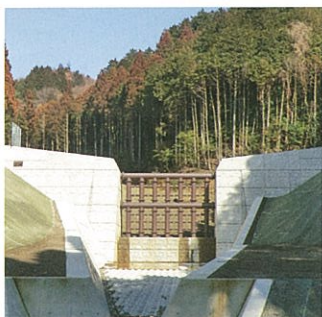
琵琶湖や河川はうろおいのある水辺空間として、あるいは多様な生き物の生息・生育空間として重要な役割を果たしています。また、地域の風土や文化を形成する重要な要素でもあります。このような河川環境を保全していくための活動を推進しています。

##### 》 守山地区のヨシ原の再生



## 砂防事業

### 砂防事業の必要性



土砂災害は、すさまじい破壊力を持つ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。県内には土砂災害の危険箇所が約5,000箇所もあり、砂防事業による土砂災害対策を着実に実行していきます。

#### 》 具体的には!?

土砂災害を防止するため、避難地・避難路の保全や要配慮者利用施設の保全が必要な箇所を最優先に、自然との共生を図りながら、砂防えん堤や溪流保全工等の施設整備を実施します。



## 豊かな自然の恵みを活かす生活基盤づくりを目ざして



新名神高速道路完成イメージ (NEXCO西日本提供)

## 滋賀県の道路整備

滋賀県の強みである、比較的恵まれた労働力や人と人のつながり、琵琶湖をはじめ豊かな恵みをもたらす自然、地理的優位性や内陸工業県としての産業集積、大学や研究機関などの知的集積、地域で培われた文化などを活かすため、道路をはじめとする交流基盤を整備し、県内の均衡ある発展と個性ある地域づくりを目ざします。

### 道路整備5つのテーマ

#### theme 1 県内産業の活性化と地域文化の交流

バイパス整備等による隣接府県とのアクセス強化や、道路の立体化による安全な通行の確保を行うこと、高速道路にインターチェンジを追加することで、地域の活性化、物流の効率化を図ります。

##### 》 追加インターチェンジの企画・立案

高速道路に追加するインターチェンジの企画・立案も行っています。



湖東三山スマートインターチェンジ (NEXCO西日本提供)

#### theme 2 誰もが安心・安全に暮らせる優しい県土の実現

歩道の整備やバリアフリー化、災害に強い道づくりのための法面の崩壊防止や橋梁の耐震対策を行う他、冬期の安全な通行確保のための除雪や凍結防止剤散布、誰もが安心して利用できる道づくりを進めています。



葛籠尾崎大浦線

#### theme 3 環境負荷の軽減と個性と潤いのある生活空間の創造

渋滞緩和やCO<sub>2</sub>排出量の削減に効果のある整備を進めます。

#### theme 4 地域の自立的発展と不安のない暮らしの創出

地域内の交流を強化・促進し、地域の一体性が保持できるよう整備を進めます。

#### theme 5 既存施設の計画的修繕

滋賀県が管理する橋梁は、高度経済成長期に集中的に整備されたものが多く、高齢化する橋梁を安全に長く使用していくためには、適切な維持管理をしなければなりません。滋賀県では、「点検」→「診断」→「対策」→「記録」の維持管理サイクルによる適切な管理を行うため、予防保全の考え方を取り入れた「橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、計画的な修繕を実施しています。

##### 》 橋梁の維持管理！主桁断面修復とは？

高齢化した橋の「主桁 (=梁)」は、塩害等による腐食で、強度が不足する恐れがあります。脆弱部をはつり断面修復材で復旧することで適切な強度を保ち、安心・安全な交通環境を維持しています。



Before

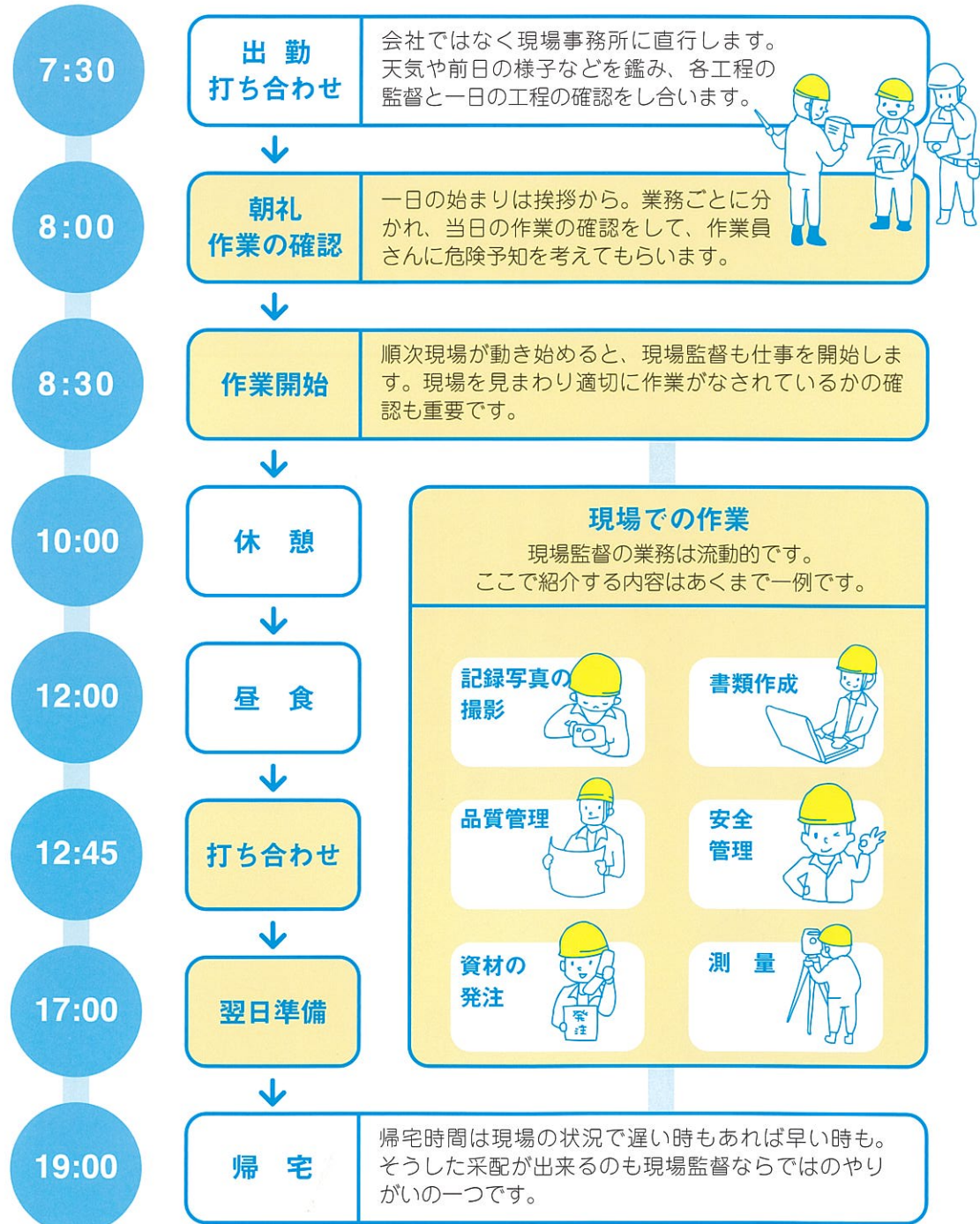
After

現場監督の仕事は決まったことをすればいいわけではありません。  
現場の進捗や天候など様々な状況でその日の業務を柔軟にこなしていく必要があります。  
そんな現場監督の現場での一日の流れを見てみましょう！



## 現場監督、佃さんの業務と一日

**Profile** 氏名 佃一哉さん 勤務先 株式会社 昭建  
出身 滋賀県 役職 工事長  
経歴 25年



# 建設人のキャリア

建設業、気になるのはやっぱりキャリア。  
株式会社 昭建に務め、この業界で25年のキャリアを持つ佃一哉さんを参考に  
建設業で働くイメージをしてみてください！

業界歴 25年  
佃一哉さん

キャリアを積む中でやりがいは変わります。  
大事なのは続けること、これは実感です。

「チームでひとつのものを作り上げる。それに勝るやりがいはない」と言い切る佃さん。ものを作り上げた喜びもさることながら、チーム一丸となって進めていくプロセスが、建設業という仕事の面白いところだと実感しています。佃さんは小さい頃から工場のものづくりや、チラシに入ってくるマンションなどの間取りを見るのが好きな子どもでも、入った瞬間から興味は地図を見ることに変わっていき、高校生の頃になると漠然と自分の適性が建設業に向いているのではと感じ始め、大学では土木工学を専攻。自分が育った環境で仕事をしたいという思いも強く、滋賀県の暮らしを支える建設の仕事を生業とすることを決めたといます。「イメージは真っ黒に日焼けしたおっちゃん」。実際にそんなイメージとは違いました。雰囲気は普通の会社と同じ。「現場の仕事が体力を使い、汚れることもあるのは覚悟していたこと」と何食わぬ顔です。



建設業界で働くまでの経緯

「同じ仕事、同じ現場はないように、上司も変わればチームも変わる」。そんな状況を苦にせず、それとは逆に、いろんな個性を持った人たちとのコミュニケーションをどう取っていくかが、建設という仕事を楽しくするかどうかの鍵だとか。佃さんは人に応じた対応を心がけながらも神経を使うのではなく、お互いにより良いコミュニケーションの仕方を探っているのです。

「仕事はやっぱり長く続けることが肝心。自分の場合は10年かな」。自分に向いていると実感するのも、仕事が好きになってきたのも、それは長く働いてわかったことだと佃さん。キャリアを積んでいくことで、周りからの自分の扱いかわり、認められているんだと感じ始める瞬間があるといいます。今後の目標については、「現場の管理だけでなく「営業」がしたいとか。滋賀の暮らしを支える「建設人」佃さんのキャリアは続きます。



佃さんにとっての建設業という仕事



やりがい  
＝人を動かし現場を動かす

入社当初は現場監督と言っても下っ端でしたが、土木施工管理技士の資格をとったりして、今は人を動かす立場に。どうしたら現場をうまくコーディネートできるかが、今の仕事のやりがいです！



いま、働く環境の改善が建設業界で進んでいます。どんな動きが起こっているのか。そんな建設業界の最前線を調査しました。

技術の進歩で、現場の安心・安全性や快適性も上がっています！

5S運動を通して、綺麗な職場環境づくりに取り組んでいます！

家庭を大切に出来る職場の制度整備も進んでいます！

学校の体験学習の受入で将来の建設人を育成したい！



田中シビルテック株式会社 営業部 部長 藤井一彦さん

株式会社 代表取締役 副社長 兼光喜一郎さん

株式会社 常務取締役 竹村茂さん

株式会社 取締役 土木事業本部長 田中久雄さん

## いま建設業で働きたい 6つのワケ

私たちの暮らしを支えてくれる建設業。そんな大切な役目を果たしてくれている職場の環境について、一般的にとてもいい環境という印象はありませんでした。でも、そういったイメージはもう過去のもの。業界全体や事業者の様々な取組で、気持ちよく働くための環境づくりが進んでいます！

### 01 建設現場美しい？ 秘訣は5S運動！

ここ10年で建設現場は目に見えて美しい仕事場になっています。その基本に5S運動があります。「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」のSで始まる5つです。基本となる3S（整理・整頓・清掃）から始めて、「清潔」「躰」の状態を維持し、習慣化する意味での「躰」です。こうした取り組みによって、業務の効率化や職場の安全性向上、従業員のモラル向上に繋がっています。



### 02 快適に働くための 職場づくり

平成23年3月まで、事業者の職場快適化の取り組みを促進するために、労働局長が認定する「快適職場推進計画認定制度」が実施されました。現在制度はありませんが、当時の成果もあって、各事業者や現場では、「男女のトイレを設置」「シャワー室・更衣室の設置」など、他にも快適な職場を実現するための様々な工夫が現場ではされています。 ※1



※1：事業者や現場の規模によって職場環境は異なります

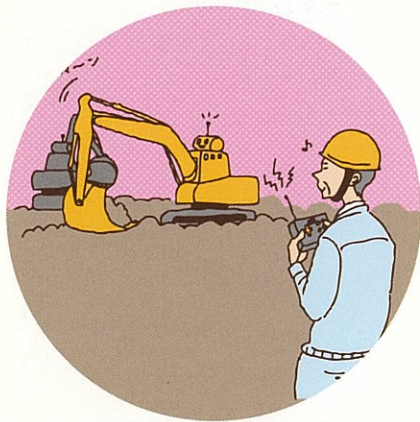
### 03 快適に過ごす 機能性アイテム

夏の建設現場では、水分補給、塩分補給は大切なポイントなのですが、日射や暑さというものは根本的に解決できません。しかし、最近では、「涼しくなる」ということを目的とした機能的なアイテムが登場しています。例えば「空調服」は服に付いた小型ファンで、服の中に外気を取り入れ、涼しく快適に作業が。また遮光性の塗料が塗布されたヘルメットもあり、太陽熱を反射し、ヘルメット内部温度の上昇を抑制します。



### 04 安心・安全な 危険ゼロな現場づくり

機械設備の進歩によって、旧来では、手作業で行っていた作業も、機械によるサポートが可能になってきているなど、作業における事故の危険性が減ってきています。また、建設現場の管理では、リスクアセスメントの考え方が普及しています。その考え方に基づき、そもそも危険な場所を作らないという考え方で「災害ゼロ」から「危険ゼロ」の現場づくりも進んでいるなど、建設現場の安全に対する考え方の見直しが行われています。



### 05 女性・男性問わず 働ける環境づくり

これまでは、建設業界といえば男社会という印象が強くなりました。しかし、前頁でもご紹介したように、多くの女性が適性を活かして業務をこなすなど現場でも活躍する時代になっています。また、育児休業や配偶者出産休暇、看護休暇などの制度も充実し、男性も育児休業を取得する例も見られるようになってきました。職場だけではなく、建設業に従事する誰もが豊かな暮らしを実現するための環境も整ってきています。



### 06 次の世代を迎える 体験学習の受入

依然として、大変な職業としての印象がある建設業ですが、次の時代を担う若い世代が少しでも興味・関心を持っていただくために様々な見学会や中学生、高校生を始めとする体験学習の受入れを積極的に行っています。このような現場を体感できる機会を設けることを通して、最先端の技術の紹介など、ものづくりの現場に携わる建設業の魅力を伝え、将来の人材を育成していきたいと考えています。

